

歯科矯正学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	葛西 一貴 (歯科矯正学)

学習目標 (G I O)	<p>歯科矯正学とは、歯、顎ならびに顔の正常な成長発育を研究し、それら諸構造の不正な成長発育から引き起こされる不正咬合や上下顎骨の異常な咬合関係を改善し、口腔の正しい機能を営ましめ、同時に顔貌の改善をはかり個人の福祉に寄与し、さらに不正状態の発生を予防するための研究と技術とを含めた歯科医学の一分科である。実際に歯科矯正治療を行うにあたっては、不正咬合がもたらす口腔機能障害や心理的障害を除去し、咬合を正常またはそれに近い状態に治すことである。</p> <p>授業内容は、総論として、歯科矯正学の歴史と定義、矯正治療の目的、成長発育概論、頭部の成長発育、歯列と咬合の発育、口腔機能の発育、咬合についての概論、正常咬合、不正咬合、診断法、不正咬合の原因および予防などである。また、診断学として診断学概論、診査、形態的・機能的検査、診断。さらに矯正治療における抜歯問題などを学ぶ。治療学として治療学概論、矯正力、矯正治療に伴う生体反応、固定、矯正治療用材料と器械器具、矯正装置、不正咬合の治療および保定などがある。</p> <p>不正咬合の治療としては、乳歯咬合期、混合歯咬合期および永久歯咬合期における治療を基本とし、それに加えて唇顎口蓋裂などに伴う治療、他科との共同による治療（外科的矯正法）、筋機能療法を学ぶ。</p> <p>矯正治療は一般歯科治療と比べると治療期間が2年から3年と比較的長い。顎骨の発育異常を伴う成長期の患者さんでは、顎の成長コントロールに更に期間を要することになり、矯正医の管理下に置かれる期間が長期にわたり、患者さんの負担も決して少なくない。矯正医はここで学んだ基礎知識と技術を駆使して患者さんの治療にあたっている。講義ではたくさんの矯正治療症例を紹介するので、矯正治療に対する興味を持って頂きたい。</p> <p>また、歯科矯正学実習の目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 種々の矯正装置（舌側弧線装置、上顎前方牽引装置）の基本的製作法を修得すると共にそれらの作用機序を学ぶ。 2. 頭部エックス線規格写真および口腔模型の基本的分析法を修得する。
担当教員	葛西 一貴、山口 大、今村 隆一、小野 修一、五関 たけみ、榎本 豊、齋藤 勝彦、根岸 慎一、徳永 理利、小堀 理恵、石井 かおり、弘松 美紀、清水 真美、※高橋 治
教科書	(講義) 歯科矯正学 第5版 相馬邦道、飯田順一郎、山本照子、葛西一貴、後藤滋巳 医歯薬出版 (実習) 歯科矯正学基礎実習書 葛西一貴、山口 大、今村隆一、小野修一、五関たけみ、榎本 豊、齋藤勝彦、高橋 治 わかば出版
参考図書	(講義) 混合歯列期の矯正歯科治療 後藤滋巳、葛西一貴、三浦廣行、氷室利彦 医歯薬出版 (講義) 新版 プロフィットの現代歯科矯正学 William R. proffit (高田健治 訳) 医歯薬出版
評価方法 (E V)	(講義) 平常試験(4回実施)で評価する。 (実習) 実習小テストと実習評価によって評価点とする。実習態度も実習評価に加味する。 歯科矯正学の評価は講義の評価および実習評価の合計で行う。 なお、講義・実習それぞれ 1/5以上を欠席した場合、評価点は0-60点とする。また、講義・実習のいずれかが合格点に達しない場合、歯科矯正学の評価点は60点未満とする。なお、平常試験の再試験は行わない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	(講義) 近年不正咬合が増加しているといわれているが、その原因と診断について楽しみながら学んでいただきたい。また、ダイナミックな歯の移動により得られたきれいな咬み合わせや顔貌の改善の様子などをみて、矯正学への興味を深めていただきたい。e-mailによる質問を受け付ける。 (実習) 不正咬合の治療がどのような装置によって行われるか。また、歯がどのように動くのかを実習を通じて理解してほしい。e-mailによる質問を受け付ける

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/07 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 第1回 ・ 歯科矯正学の歩みと定義 ・ 歯科矯正学の意義と目的 ・ 成長発育概論	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、歯科矯正学の歩みと定義・歯科矯正学の意義と目的・成長発育概論について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 不正咬合による口腔機能障害を列挙できる。 2. 矯正治療の目的を述べることができる。 3. 成長発育と年齢 (暦齢、生理的年齢) との関係を説明できる。 4. Harris と Scammon の成長発育パターンについて述べるができる。 5. 骨の成長様式を説明できる。 6. 成長発育の評価法および臨床上的の利用意義を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・ 歯科矯正学の歴史について述べるができる。 ・ 歯科矯正学の定義について説明できる。 ・ 上顎および下顎の成長発育についてその特徴を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項</p>	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/07 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第1回 ・歯科矯正学の歩 みと定義 ・歯科矯正学の意 義と目的 ・成長発育概論	7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 b 発育期の特徴 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 c 成長発育・発達の特徴 (身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。	葛西 一貴
2014/04/07 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習) 第1回 ・器具貸与・点検	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正学実習で使用する器具の用途について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正学実習で使用する器具の用途について説明できる。 【準備学習項目】 ・矯正用プライヤーの名称を列挙できる。 【学習場所・媒体等】 第5実習室 【学習方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 ナ 不正咬合の治療 a 基本的術式 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/04/07 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第2回 ・ワイヤー屈曲 ・自在鑑着	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、0.9mm線の屈曲と自在鑑着について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 0.9mm線の屈曲ができる。 2. 自在鑑着ができる。 【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。 【学習場所・媒体等】 第5実習室 【学習方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置> 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。 *⑦矯正治療に必要な力学を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/04/14 (月)	〔講義〕第2回	【授業の一般目標】	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2時限 10:40～12:10	<ul style="list-style-type: none"> ・頭蓋の成長発育 ・顎顔面の成長発育 ・口唇裂, 口蓋裂および顔面裂 	<p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、頭蓋の成長発育・顎顔面の成長発育・口唇裂, 口蓋裂および顔面裂について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 脳頭蓋と脳頭蓋底の成長発育様式について述べるができる。 2. 顔の成長発育および口唇裂の発生様式について説明できる。 3. 顔面裂の発生様式について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・頭蓋の成長発育についてその特徴を列挙できる。 ・上顎および下顎の成長発育についてその特徴を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 a 歯・歯列の成長発育 (歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 f 咬合・咀嚼障害 h 先天異常、発育異常 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 3 歯・口腔・顎・顔面の発生 ア 顔面 イ 顎、口蓋 ク 軟骨内骨化、膜内骨化 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ア 脳頭蓋の成長発育 イ 顔面頭蓋の成長発育 ウ 歯列・咬合の成長発育 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ア 先天異常・後天異常</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 *⑤顎関節の構造と機能を説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 *③顎変形症を概説できる。</p>	葛西 一貴
2014/04/14 (月) 3時限 13:00～14:30	(実習前講義) 第1回 ・舌側弧線装置について (実習) 第3回 ・舌側弧線装置 1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 舌側弧線装置の構成・適応症・歯の移動様式を説明できる。 2. タイポドント (矯正用咬合器) に人工歯を排列して装置製作の準備ができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 前半=実習前講義: 302教室 後半=実習: 第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p>	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊彦 榎本 勝彦 齋藤 慎一 藤根 理利 岸永 理恵 根岸 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 美紀 清水 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/14 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習前講義) 第1回 ・舌側弧線装置について (実習) 第3回 ・舌側弧線装置 1	<p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *◎矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 美紀 清水 真美
2014/04/14 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第4回 ・舌側弧線装置 2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. タイポドントに植立した人工歯の排列をかえて、前歯部を反対咬合にすることができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *◎矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 美紀 清水 真美
2014/04/21 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 第3回 ・咬合概論 ・正常咬合 ・不正咬合 ・不正咬合のとりえ方 ・不正咬合の分類	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、咬合概論・正常咬合・不正咬合・不正咬合のとりえ方・不正咬合の分類について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 正常咬合の種類および矯正治療目標について説明できる。 2. 正常咬合が成立し、かつそれが保持されるための条件を述べることができる。 3. 永久歯列期の正常咬合の概念について説明できる。 4. 不正咬合の病因、実態およびその疫学的特長を列挙できる。 5. 個々の歯の位置異常およびその用語について説明できる。 6. 上下歯列弓の咬合関係の異常について、先天異常も含めて説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・咬合の定義および顎位と咬合について説明できる。 ・咬合と顎運動について、関連する筋の主な名称や作用および閉鎖経路について説明できる。 ・Angleの分類および高橋分類などの不正咬合の診断について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 a 口腔の構造 (口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口{腔}底、唾液腺、頬、口唇、口峡、歯列)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 b 口腔の機能 (咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発音と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚) d 頭部の筋 (表情筋・咀嚼筋の種類) h 顎関節の構成 (下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靭帯) 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 b 発育期の特徴 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 a 歯・歯列の成長発育 (歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)</p>	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/21 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第3回 ・咬合概論 ・正常咬合 ・不正咬合 ・不正咬合のとりえ方 ・不正咬合の分類	b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 ア 歯列・咬合異常の要因 イ 咬合誘導の考え方 ウ 保険 オ 口腔習癖とその対応 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *②咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。 *⑤顎関節の構造と機能を説明できる。 *⑧嚙下の機序を説明できる。 E-2-2) 口唇・口腔の基本構造と機能 *③歯列と咬合について説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *①矯正治療の目的と意義を説明できる。 *②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。 *③不正咬合によって生じる障害を列挙できる。 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴
2014/04/21 (月) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第4回 ・矯正用材料 ・矯正用器械・器具	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正用材料・矯正用器械器具について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 矯正用材料としての金属材料にどのようなものがあるかを述べるができる。 2. 矯正用材料としてのゴム質ならびにレジン材料の所要性質を述べるができる。 3. 矯正用器材の特徴について説明できる。 【準備学習項目】 ・矯正用器材を列挙できる。 【学習場所・媒体等】 302教室 【学習方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 歯科材料と歯科医療機器 1 生体材料の科学 ウ 金属材料 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 歯科材料と歯科医療機器 1 5 歯科矯正用材料 ア 線材料、ワイヤー イ バンド、ブラケット ウ 接着材 エ エラスティック オ 床用レジン 【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *①高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】 *②生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。 *③生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 *④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。	榎本 豊
2014/04/21 (月) 4時限 14:40～16:10	〔実習〕第5回 ・舌側弧線装置 3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. タイポドント上で上顎第一大臼歯のバンドの調整ができる。 2. 矯正用バンドにSTロックを鑢着できる。 【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理恵 小堀 理恵 石井 かつお 弘松 美紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/21 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第5回 ・舌側弧線装置 3	<p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	清水 真美
2014/04/28 (月) 2時限 10:40~12:10	(実習) 第6回 ・舌側弧線装置 4	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 上顎舌側弧線装置のための作業模型を製作できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大隆 今村 隆一 小野 修一 五関 修一 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/04/28 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習) 第7回 ・舌側弧線装置 5	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 上顎舌側弧線装置の主線の屈曲ができる。 2. 上顎舌側弧線装置の主線の鑑着ができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大隆 今村 隆一 小野 修一 五関 修一 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/04/28 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置 6	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 舌側弧線装置をタイポドントに装着できる。 2. 上顎舌側弧線装置の主線に補助弾線を自在鑑着できる。</p>	葛西 一貴 山口 大隆 今村 隆一 小野 修一 五関 修一 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/28 (月) 4時限 14:40～16:10	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置 6	<p>【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の基本構造を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/05/12 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 第5回 ・不正咬合の原因 ・不正咬合の予防	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、不正咬合の原因・不正咬合の予防について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 不正咬合の遺伝的原因および環境的原因を説明できる。 2. 不正咬合の全身的原因および局所的原因と不正咬合との関連を述べることができる。 3. 乳歯列期、混合歯列期および永久歯列期における不正咬合の予防について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・不良習癖がもたらす咬合異常について説明できる。 ・乳歯列期における不正咬合の予防について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 9 人口統計と保健統計 イ 保健統計</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 10 疫学とその応用 シ 不正咬合の疫学要因 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 3 不正咬合の予防・管理 ア 不正咬合発生・進行の要因 イ 不正咬合発生の予防 ウ 不正咬合進行の抑制 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 ア 歯列・咬合異常の要因 イ 咬合誘導の考え方 ウ 保険 エ 動的咬合誘導 7 不正咬合の病因・病態 エ 不正咬合の原因</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *③不正咬合によって生じる障害を列挙できる。 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴
2014/05/12 (月) 3時限	(実習) 第9回 ・舌側弧線装置 7	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を</p>	葛西 一貴 山口 大

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
13:00~14:30	(実習) 第9回 ・舌側弧線装置 7	<p>図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. ダンキングを行い、舌側弧線装置による反対咬合被蓋改善の過程を説明できる。 2. 混合歯列期の反対咬合の治療法をタイプドントで実施できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・舌側弧線装置の作用機序を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/05/12 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習前講義) 第2回 ・上顎前方牽引装置について	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、上顎前方牽引装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 上顎前方牽引装置の使用目的および装置の構成を説明できる。 2. 上顎前方牽引装置の製作法を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・上顎前方牽引装置の基本構造について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 ケ 上顎前方牽引装置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	齋藤 勝彦
2014/05/19 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 第6回 ・平常試験①	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第1回から第5回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 第1回から第5回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・第1回から第5回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	葛西 一貴
2014/05/19 (月) 3時限 13:00~14:30	〔講義〕 第7回 ・形態検査1 (実習) 第10回 ・上顎前方牽引装置1	<p>【授業の一般目標】 〔講義〕不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、形態検査について学ぶ。 (実習)不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、上顎前方牽引装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 初診から治療終了までのプロセスを説明することができる。 2. 一般検査、全身的検査および局所的検査の項目を列挙できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/05/19 (月) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第7回 ・形態検査1 (実習)第10回 ・上顎前方牽引装置1	3. 顔面写真による顔面形態の検査について説明できる。 4. 口腔模型分析について説明できる。 5. 頭部X線規格写真の特徴および重要性について説明できる。 6. 頭部X線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。 7. 上顎前方牽引装置の使用目的および装置の構成を説明できる。 8. タイポドント上で上顎第一大臼歯のバンドの調整ができる。 【準備学習項目】 〔講義〕 ・歯科矯正臨床における一般的診断項目について列挙できる。 ・平行模型について説明できる。 ・顎態模型について説明できる。 ・セットアップモデルについて説明できる。 ・頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点を列挙できる。 ・頭部エックス線規格写真分析に用いる分析法を列挙できる。 (実習) ・上顎前方牽引装置の基本構造について説明できる。 【学習場所・媒体等】 〔講義〕302教室 (実習)第5実習室 【学習方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 e 歯列・咬合の症候 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 g 顎骨の症候 (形態の異常) 10 診察の基本 カ 口腔・顎・顔面の診察 a 顔貌の対称性、顔色、皮膚 キ 歯列・咬合状態の診察 a 歯列弓の形態・大きさ 11 検査の基本 オ 画像検査 a エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査) 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 2 口腔・顎・顔面の構造 サ 顎関節 総論Ⅶ 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 オ 顎骨 総論Ⅸ 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 カ 歯列・咬合検査 ケ 下顎位検査 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 ケ 上顎前方牽引装置 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *②口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 *⑦患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。 *⑧的確な病歴聴取(現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等)を行い、必要な部分を抽出できる。 *⑨病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 ⑩基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。 *⑮各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 E-1-2) 画像検査 *⑧頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】	石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/05/19 (月) 4時限 14:40～16:10	(実習)第11回 ・上顎前方牽引装置2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、上顎前方牽引装置について学ぶ。 【行動目標(SBOs)】	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/05/19 (月) 4時限 14:40～16:10	(実習) 第11回 ・上顎前方牽引装置2	<p>1. 上顎前方牽引装置の使用目的および装置の構成を説明できる。 2. Nance装置製作のための作業模型が製作できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・上顎前方牽引装置の基本構造について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 ケ 上顎前方牽引装置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理恵 小堀 理恵 石井 かつお 弘松 美紀 清水 真美
2014/05/26 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第8回 形態検査2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 初診から治療終了までのプロセスを説明することができる。 2. 一般検査、全身的検査および局所的検査の項目を列挙できる。 3. 顔面写真による顔面形態の検査について説明できる。 4. 口腔模型分析について説明できる。 5. 頭部エックス線規格写真の特徴および重要性について説明できる。 6. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・歯科矯正臨床における一般的診断項目について列挙できる。 ・平行模型について説明できる。 ・顎態模型について説明できる。 ・セットアップモデルについて説明できる。 ・頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点を列挙できる。 ・頭部エックス線規格写真分析に用いる分析法を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 303教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 e 歯列・咬合の症候</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 g 顎骨の症候 (形態の異常) 10 診察の基本 カ 口腔・顎・顔面の診察 a 顔貌の対称性、顔色、皮膚 キ 歯列・咬合状態の診察 a 歯列弓の形態・大きさ 11 検査の基本 オ 画像検査 a エックス線撮影 (口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査) 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 2 口腔・顎・顔面の構造 サ 顎関節 総論Ⅶ 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 オ 顎骨 総論Ⅸ 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 カ 歯列・咬合検査 ケ 下顎位検査 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能</p>	五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/05/26 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第8回 形態検査2	C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *②口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 *⑦患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。 *⑧的確な病歴聴取(現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等)を行い、必要な部分を抽出できる。 *⑨病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 ⑫基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。 *⑮各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 E-1-2) 画像検査 *⑧頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】	五関 たけみ
2014/05/26 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習)第12回 ・上顎前方牽引装置3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、上顎前方牽引装置について学ぶ。 【行動目標(SBOs)】 1. 上顎前方牽引装置の使用目的および装置の構成を説明できる。 2. Nance装置製作のための主線が屈曲できる。 3. Nance装置製作のための主線が鑑着できる。 【準備学習項目】 ・上顎前方牽引装置の基本構造について説明できる。 【学習場所・媒体等】 第5実習室 【学習方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 第5実習室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 ケ 上顎前方牽引装置 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/05/26 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習)第13回 ・上顎前方牽引装置4	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、上顎前方牽引装置について学ぶ。 【行動目標(SBOs)】 1. 上顎前方牽引装置の使用目的および装置の構成を説明できる。 2. 牽引用アームの屈曲ができる。 3. 牽引用アームの鑑着ができる。 【準備学習項目】 ・上顎前方牽引装置の基本構造について説明できる。 【学習場所・媒体等】 第5実習室 【学習方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 第5実習室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 ケ 上顎前方牽引装置 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/06/02 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第9回 ・形態検査3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、形態検査について学ぶ。 【行動目標(SBOs)】 1. 初診から治療終了までのプロセスを説明することができる。	五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/02 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第9回 ・形態検査3	2. 一般検査、全身的検査および局所的検査の項目を列挙できる。 3. 顔面写真による顔面形態の検査について説明できる。 4. 口腔模型分析について説明できる。 5. 頭部エックス線規格写真の特徴および重要性について説明できる。 6. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。 【準備学習項目】 ・歯科矯正臨床における一般的診断項目について列挙できる。 ・平行模型について説明できる。 ・顎態模型について説明できる。 ・セットアップモデルについて説明できる。 ・頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点を列挙できる。 ・頭部エックス線規格写真分析に用いる分析法を列挙できる。 【学習場所・媒体等】 302教室 【学習方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 e 歯列・咬合の症候 【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 g 顎骨の症候（形態の異常） 10 診察の基本 キ 歯列・咬合状態の診察 a 歯列弓の形態・大きさ 11 検査の基本 オ 画像検査 a エックス線撮影（口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査） 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 2 口腔・顎・顔面の構造 コ 歯列 サ 顎関節 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 オ 顎骨 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査 コ パノラマエックス線検査 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-2-3 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。	五関 たけみ
2014/06/02 (月) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第10回 ・機能検査	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、機能検査について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 顎運動の検査と矯正診断とのかかわりを説明できる。 【準備学習項目】 ・種々の機能検査法を列挙できる。 【学習場所・媒体等】 302教室 【学習方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 11 検査の基本 エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査 d 顎関節の検査	齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/02 (月) 3時限 13:00~14:30	〔講義〕第10回 ・機能検査	<p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査 e 筋の検査 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 ア 下顎位、下顎運動 コ 発音、構音 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 カ 顎関節 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 ケ 下顎位検査 シ 舌運動・舌圧検査 セ 咬合力検査 タ 構音機能検査 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の病因・病態 イ 不正咬合の種類</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 ⑩的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。 *⑪基本的診察を行った後、次に必要となる検査を想定できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。</p>	齋藤 勝彦
2014/06/02 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第14回 ・上顎前方牽引装置5	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、上顎前方牽引装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. Nance装置の口蓋部にレジジンボタンを製作できる。 2. 上顎前方牽引装置の作用機序について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・上顎前方牽引装置の作用機序について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 矯正装置 ケ 上顎前方牽引装置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 小野 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/06/09 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第11回 ・矯正力	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正力について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 顎整形力について説明できる。 2. 機能的矯正力について説明できる。 3. 歯の傾斜移動と歯体移動について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・器械的矯正力について説明できる。 ・歯の移動様式について述べるができる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	山口 大

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/09 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第11回 ・矯正力	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 ア 狭義の矯正力</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 イ 顎整形力 ウ 生体反応 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑦矯正治療に必要な力学を説明できる。 *⑧矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p>	山口 大
2014/06/09 (月) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第12回 ・矯正歯科治療における抜歯1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における抜歯について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 矯正歯科治療における抜歯の歴史について説明できる。 2. 矯正歯科治療における抜歯の意義について説明できる。 3. 矯正歯科治療における抜歯の部位と数について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・矯正歯科治療のための抜歯の目的を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断 9 矯正力と固定 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *②歯種別の形態と特徴を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。</p>	山口 大
2014/06/09 (月) 4時限 14:40～16:10	〔講義〕第13回 ・矯正歯科治療における抜歯2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における抜歯について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 矯正歯科治療における抜歯の意義について説明できる。 2. 矯正歯科治療における抜歯の部位と数について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・矯正歯科治療のための抜歯の目的を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	山口 大

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/09 (月) 4時限 14:40～16:10	〔講義〕 第13回 ・矯正歯科治療における抜歯2	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断 9 矯正力と固定 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *②歯種別の形態と特徴を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	山口 大
2014/06/16 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 第14回 ・平常試験②	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第7回から第11回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 第7回から第11回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・第7回から第11回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	葛西 一貴
2014/06/16 (月) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕 第15回 ・矯正歯科治療における固定	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における固定について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 部位による固定の種類を説明できる。 2. 抵抗の性質による固定の種類を説明できる。 3. 抜歯症例における抜歯空隙利用のための固定の強さについて説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・固定の意義を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *②歯種別の形態と特徴を説明できる。 *⑤歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	山口 大
2014/06/16 (月) 4時限 14:40～16:10	(実習) 第15回 ・矯正装置の説明 ・矯正用器具器具	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正装置・矯正用器具器具について学ぶ。</p>	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	の説明	<p>【行動目標（SBOs）】 1. 固定式および可撤式装置の構成・適応症・作用機序を説明できる。 2. 矯正用器材器具の使用法を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・固定式および可撤式装置を列挙できる。 ・基本的な矯正用器材器具を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器 15 歯科矯正用材料 ア 線材料、ワイヤー</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器 15 歯科矯正用材料 イ バンド、ブラケット ウ 接着材 エ エラスティック オ 床用レジン 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 サ マルチブラケット装置 11 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/06/23（月） 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第16回 ・矯正歯科治療に伴う生体反応	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療に伴う生体反応について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯の移動に伴う圧迫側と牽引側の組織変化の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・歯および歯周組織の構造を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 3 歯・口腔・顎・顔面の発生 ク 軟骨内骨化、膜内骨化</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 3 歯・口腔・顎・顔面の発生 ケ 骨の形成・吸収・改造<リモデリング> コ 石灰化機構 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 ウ 生体反応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *⑤歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑦矯正治療に必要な力学を説明できる。 *⑧矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p>	山口 大
2014/06/23（月） 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第17回 ・治療学概論 ・治療計画の立案 ・乳歯列期および	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、治療学概論・治療計画の立案・乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。</p>	榎本 豊

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/23 (月) 3時限 13:00～14:30	混合歯列期の治療 1	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査および症例分析の結果を総合評価できる。 2. 矯正治療の開始時期と流れについて説明できる。 3. 乳歯列期における治療について説明できる。 4. 乳歯列期の治療についてその概略を述べることができる。 5. 混合歯列期の正中離開、前歯部叢生に対する対処法を説明できる。 <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防矯正、抑制矯正、限局矯正、本格矯正について説明できる。 ・ 各種不正咬合についてその特徴を列挙できる。 ・ 混合歯列期に生じる不正咬合を列挙できる。 <p>【学習場所・媒体等】</p> <p>302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1 検査の基本 ア 意義、目標 c 医療情報の収集 <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論X 治療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 治療計画 ア 治療計画の立案 イ 治療計画を左右する因子 ウ 治療計画の提示 エ 治療の評価 <p>歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 不正咬合の診断 ウ 診断 エ 治療計画 1 1 不正咬合の治療 ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療 <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常</p> <p>*③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】</p> <p>*④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。</p> <p>E-4 歯科医療の展開</p> <p>E-4-1) 不正咬合</p> <p>*④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p> <p>*⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p> <p>*⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p> <p>E-4-2) 小児の歯科治療</p> <p>*⑩小児患者の対応について説明できる。</p>	榎本 豊
2014/06/23 (月) 4時限 14:40～16:10	(実習) 第16回 器具の点検・返却	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正学実習で使用する器具の用途について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 矯正実習で使用する器具の用途について説明できる。 <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矯正用プライヤーの名称を列挙できる。 <p>【学習場所・媒体等】</p> <p>第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 5 治療の基礎・基本手技 ナ 不正咬合の治療 a 基本的術式 <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-4 歯科医療の展開</p> <p>E-4-1) 不正咬合</p> <p>*⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美
2014/06/30 (月) 2時限	〔講義〕 第18回 ・乳歯列期および	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を</p>	榎本 豊

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
10:40～12:10	混合歯列期の治療 2	<p>図るために、乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 乳歯列および混合歯列期の治療に用いる矯正装置について述べるができる。 2. 舌側弧線装置の構造および適応症について説明できる。 3. ヘッドギア、チンキャップおよび上顎前方牽引装置の使用目的および作用効果について説明できる。 4. 床矯正装置の種類および使用目的について説明できる。 5. Rapid expansion の作用効果について述べるができる。 6. Slow expansion の作用効果について述べるができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・機能的矯正装置の種類および作用効果について述べるができる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 エ 治療の評価 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	榎本 豊
2014/06/30（月） 3時限 13:00～14:30	（実習）第17回 模型分析および診断1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、模型分析および診断について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 矯正治療の診断のための模型分析を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・平行模型について説明できる。 ・口腔模型計測項目を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 カ 歯列・咬合検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ア 診察 ウ 診断 エ 治療計画</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 今村 隆一 小野 修一 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 徳永 理利 小堀 理恵 石井 かおり 弘松 美紀 清水 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/30 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習) 第17回 模型分析および診断1		葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/06/30 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第18回 ・模型分析および診断2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、模型分析および診断について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正治療の診断のための模型分析を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・平行模型について説明できる。 ・口腔模型計測項目を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 カ 歯列・咬合検査</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ア 診療 ウ 診断 エ 治療計画</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/07/07 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 第19回 ・平常試験③	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第12回から第18回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 第12回から第18回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・第12回から第18回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	葛西 一貴
2014/07/07 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習) 第19回 ・セファロ分析および診断1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正治療の診断のためのセファロ分析を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・頭部エックス線規格写真分析に用いる計測点を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第5実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査</p>	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/07/07 (月) 3時限 13:00~14:30	(実習) 第19回 ・セファロ分析および診断1	2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊彦 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/07/07 (月) 4時限 14:40~16:10	(実習) 第20回 ・セファロ分析および診断2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。 【行動目標(SBOs)】 1. 矯正治療の診断のためのセファロ分析を説明できる。 【準備学習項目】 ・頭部エックス線規格写真分析に用いる計測点を列挙できる。 【学習場所・媒体等】 第5実習室 【学習方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 第5実習室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴 山口 大隆一 今村 修一 小野 たけみ 五関 豊彦 榎本 勝彦 齋藤 慎一 根岸 理利 徳永 理恵 小堀 かおり 石井 美紀 弘松 真美 清水
2014/07/14 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第20回 ・永久歯列期の治療	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。 【行動目標(SBOs)】 1. マルチブラケット装置(Edgewise 装置)の構成および特徴について説明できる。 2. Edgewise 装置のメカニズムについて説明できる。 3. Edgewise 法による治療の流れを説明できる。 4. アーチワイヤーの屈曲について説明できる。 5. Begg 法の特徴について説明できる。 6. 各種不正咬合の治療を説明できる。 【準備学習項目】 ・Edgewise 装置の概略について説明できる。 【学習場所・媒体等】 302教室 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 サ マルチブラケット装置 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療	小野 修一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/07/14 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第20回 ・永久歯列期の治療	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常</p> <p>*③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】</p> <p>*④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。</p> <p>E-4 歯科医療の展開</p> <p>E-4-1) 不正咬合</p> <p>*④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p> <p>*⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p> <p>*⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	小野 修一
2014/07/14 (月) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第21回 ・他科との共同による治療1	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、他科との共同による治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口蓋裂の治療法について説明できる。 2. 唇顎口蓋裂患者の顎骨および咬合の特徴について説明できる。 3. 唇顎口蓋裂患者の治療の流れについてその概略を説明できる。 4. 口腔領域の奇形について述べるができる。 5. 顎変形症の原因、治療法について説明できる。 6. 外科矯正治療の目的および適応症について述べるができる。 <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口蓋裂の原因について説明できる。 ・顎顔面領域の成長発育を説明できる。 <p>【学習場所・媒体等】</p> <p>302教室</p> <p>【学習方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>16 チーム歯科医療</p> <p>ア 医療機関でのチームワーク</p> <p>a 歯科医師・医師間</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学各論</p> <p>各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態</p> <p>1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常</p> <p>ア 口唇・口蓋裂</p> <p>11 不正咬合の治療</p> <p>ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療</p> <p>エ 顎変形症の治療</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-4 歯科医療の展開</p> <p>E-4-1) 不正咬合</p> <p>*④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p> <p>E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4)-(1) 先天異常および後天異常</p> <p>*①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。</p> <p>*②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p> <p>*③顎変形症を概説できる。</p>	今村 隆一
2014/07/14 (月) 4時限 14:40～16:10	〔講義〕第22回 ・他科との共同による治療2	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、他科との共同による治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口蓋裂の治療法について説明できる。 2. 唇顎口蓋裂患者の顎骨および咬合の特徴について説明できる。 3. 唇顎口蓋裂患者の治療の流れについてその概略を説明できる。 4. 口腔領域の奇形について述べるができる。 5. 顎変形症の原因、治療法について説明できる。 6. 外科矯正治療の目的および適応症について述べるができる。 <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口蓋裂の原因について説明できる。 ・顎顔面領域の成長発育を説明できる。 <p>【学習場所・媒体等】</p> <p>302教室</p> <p>【学習方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p>	今村 隆一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/07/14 (月) 4時限 14:40～16:10	〔講義〕第22回 ・他科との共同による治療2	<p>必修の基本的事項 1 6 チーム歯科医療 ア 医療機関でのチームワーク a 歯科医師・医師間</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常 ア 口唇・口蓋裂 1 1 不正咬合の治療 ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療 エ 顎変形症の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 *③顎変形症を概説できる。</p>	今村 隆一
2014/07/24 (木) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第23回 ・口腔筋機能療法	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、口腔筋機能療法について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔筋機能療法について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・矯正治療に障害となる口腔習癖を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 e 不正咬合</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 オ 口腔習癖とその対応 7 不正咬合の病因・病態 エ 不正咬合の原因 8 不正咬合の診断 イ 検査 ウ 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害 *①咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	高橋 治
2014/07/24 (木) 3時限 13:00～14:30	〔講義〕第24回 ・矯正歯科治療中の口腔衛生管理 ・保定	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療中の口腔衛生管理・保定について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 矯正治療中の口腔衛生管理について説明できる。 2. 保定の定義、意義、および自然保定について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・矯正装置使用中の注意事項を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p>	今村 隆一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/07/24 (木) 3時限 13:00~14:30	〔講義〕第24回 ・矯正歯科治療中の口腔衛生管理 ・保定	<p>歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 1 不正咬合の治療 カ 治療中の管理</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 1 不正咬合の治療 キ 保定 1 0 矯正装置 テ Hawley タイプリテーナー ト Begg タイプリテーナー <ラップアラウンドリテーナー、サーカムフェレンシャルタイプリテーナー> ナ トゥースボジショナー ニ 犬歯間保定装置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	今村 隆一
2014/07/24 (木) 4時限 14:40~16:10	〔講義〕第25回 ・矯正歯科治療に伴う偶発症	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療に伴う偶発症について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正治療時に生じる偶発症について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・矯正治療時に生じる偶発症を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 1 不正咬合の治療 ク 偶発症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療 *⑦失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。 *⑧歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑧矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。 *⑨矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。</p>	今村 隆一
2014/09/08 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第26回 ・平常試験④	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第20回から第25回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 第20回から第25回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・第20回から第25回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p>	葛西 一貴
2014/09/08 (月) 3時限 13:00~14:30	〔講義〕第27回	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために必要な知識と基本的技能を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 不正咬合の特徴を説明できる。 2. 診断に基づく治療計画を立案できる。</p> <p>【準備学習項目】 講義範囲全般について十分な復習を行う。</p> <p>【学習場所・媒体等】</p>	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/09/08 (月) 3時限 13:00~14:30	〔講義〕 第27回	302教室 【学習方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	葛西 一貴
2014/09/08 (月) 4時限 14:40~16:10	〔講義〕 第28回	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために必要な知識と基本的技能を習得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 不正咬合の特徴を説明できる。 2. 診断に基づく治療計画を立案できる。 【準備学習項目】 講義範囲全般について十分な復習を行う。 【学習場所・媒体等】 302教室 【学習方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	葛西 一貴